

広報



しゅら



事故防止のタスキをかけて十三湖大橋をかけ抜ける

事故防止の願いをこめて力走

市浦村・市浦村体育協会（山田勝明会長）共催の第四回市浦村交通安全駅伝大会は九月十九日、選手、役員ら百五十人が参加して村内を一巡する二十五・一〇（十区間）のコースで行われ、一般の部では昨年に続いて中里高校チーム、中学校の部では野球部Aチームがそれぞれ優勝しました。

（関連記事八・九面に）

昭和56年

8・9月号

村民スポーツの殿堂

B&G財団市浦海洋



約三十人関係者を集まり、竣工式を挙



竣工式後、祝賀パーティーを開き供養を喜びました

開成の経緯は市浦海洋センター施設は市浦海洋センター「車庫付駐車場で建設された市浦海洋センターをB&G財団の事業に委ねる十分な利用を図ってはしむと結ばれました。

続いて、薬師町東港薬局を譲り出している本書が「体協の建設は、村が多年の夢でありまふが、B&G財団がこれに多大の協力をなされた。今後は、村民スポーツの殿堂として広く利用されることになり、お心のなれあう場としても活用し、B&G財団の注目を浴びることなく、村民総体力、村民総健康、村民総幸福の目標達成のため努力します。」と感謝の言葉を述べました。

この日を境として、このころ、財団会に移り、モーターボート部会長の吉田萬士氏が乾杯、小倉士朗村長、高野の万聖、唱で「なごみ」をうらに、B&G財団市浦海洋センターの竣工を祝いました。

このころ、財団会に移り、モーターボート部会長の吉田萬士氏が乾杯、小倉士朗村長、高野の万聖、唱で「なごみ」をうらに、B&G財団市浦海洋センターの竣工を祝いました。

村民総体力 村民総健康 村民総幸福をめざす

センター完成



B & G財団市浦海洋センターの代理をいさづきをつとする同財団合理事務所（徳島県鳴門市）

海洋センターは、財団法人「アルティミティド・クラブ」の事業として、略称B&G財団市浦海洋センターが、このほど完成し、八月三十日竣工式が行われました。

海洋センターは、財団法人「アルティミティド・クラブ」の事業として、略称B&G財団市浦海洋センターが、このほど完成し、八月三十日竣工式が行われました。

青少年の健全育成と 海洋性スポーツの普及

村民の健康増進と海洋性スポーツ普及の拠点として、同財団に建設されてから、B&G財団市浦海洋センターが、このほど完成し、八月三十日竣工式が行われました。

同センターは、建設費約二千九百五十万円を投じて、市浦海洋センターに、二万三千九百七十七・三平方メートルの敷地に建設しました。

建設費は、二千九百七十九・三平方メートル、内陸建設事業費、バレーコート二面、バスケットコート一面などがある広大な敷地には、ミニテニールーム、エアロビクス室などが、グループウェア室などが完備されています。

また、体育館には、蒸気浴も設備されており、冬期スポーツ、ボート、レクリエーションなど、快遊を行うことできる施設です。

本日は、現任B&G市浦海洋クラブ、B&G十二海門市長が、B&G財団市浦海洋センターの竣工式を執り行われ、約千九百五十人を集めた式典が、ボート部会長の吉田萬士氏が乾杯、小倉士朗村長、高野の万聖、唱で「なごみ」をうらに、B&G財団市浦海洋センターの竣工を祝いました。



エレクトーンを演説した高橋英義氏

エレクトーン部会長の高橋英義氏は、京橋音楽会を卒業したエレクトーン部が、その第一人者として、エレクトーン部を演説し、高橋英義氏

華麗な調べに酔う

市浦海洋センターは、九月十五日、B&G財団市浦海洋センターで開かれました。このコンサートは、B&G財団市浦海洋センターの竣工を祝うため、エレクトーン部が、その第一人者として、エレクトーン部を演説し、高橋英義氏

落成祝い エレクトーン・コンサート



コンサートに集まった約1,000人の聴衆は、エレクトーンの調べにうっとりしていました

エレクトーン部は、九月十五日、B&G財団市浦海洋センターで開かれました。このコンサートは、B&G財団市浦海洋センターの竣工を祝うため、エレクトーン部が、その第一人者として、エレクトーン部を演説し、高橋英義氏

市浦海洋センターは、九月十五日、B&G財団市浦海洋センターで開かれました。このコンサートは、B&G財団市浦海洋センターの竣工を祝うため、エレクトーン部が、その第一人者として、エレクトーン部を演説し、高橋英義氏



B & G財団の設立の経緯と市浦海洋センター建設の経過を説明、報告したB & G財団小原喜博局長

台風15号のツメ跡

水稻に229,282千円の被害

集中豪雨と台風直撃

住宅など七戸が床上、床下浸水

二十一日から降り始めた雨は、二十二日になってもやまず、午後二時ごろになると相内川の警戒水位(1.8m)に達し、桂川地区の河川改修工事現場では、堤防の一部が決壊し、水田の一部が浸水、消防団員、工事請負業者の応援を得ながら被害の拡大をくいとめました。

二十三日にも断続的な集中豪雨にみまわれ、十三湖が増水し、水害が憂慮されたため午前十時、消防団が警戒体制に入りました。

南東から吹いていた風も、午後二時過ぎには南西の強風に変わり、瞬間最大風速も二十五以上の突風と雨で、海上では高浪が押し寄せ、十三湖の水位もグングン上昇、十三漁協に「十三湖増水災害対策本部」を設置しました。

午後七時過ぎには前湖から水がふれ出し、羽黒崎から十三漁協一帯、更には五月女灌地区の渠道約六百が上水

するなど、付近一帯の住家等の床上浸水の被害が発生、不安な一夜を過ごしました。

同対策本部では、水害を最小限度にいとめるため、関係機関や付近の住民と連絡しあいながら、住家の排水、道路への土のう積み、重機による土盛りなど、必死の作業をしました。

村では、被害を受けた農家対策として、自作業維持資金、経営資金の融資希望をとるなどの作業をすすめています。農業被害を受けた地域を天災融資法の特別地域の指定や、河川の恒久的な改修・整備も、国、県の関係機関に働きかけ、災害の復旧に努めています。



十三湖の増水に必死の作業



網、船小屋を直撃



土のう積みや重機による作業で被害を最小限にいとめる



十三湖の増水で、県道(鯉ヶ沢～蟹田線)も一時は通行止めも……

故秋田谷源太郎氏

地区発展の礎に

顕彰石碑を除幕

桂川地区は三十一世帯で人口百十二人のこじんまりとした集落であるが、いまある桂川は、故秋田谷源太郎氏のおかげ——と、桂川地区在住有志が故人の顕彰石碑を建立し、九月十一日現地で除幕式を行いました。

顕彰碑を建立したのは、秋田谷久助さんら十七人で、除幕式は午前十時から現地で行われ、脇元磯崎神社松橋徳夫宮司の神事で始まり、故人の曾孫にあたる裕代さんと紀仁くんの手で除幕されました。

故秋田谷源太郎氏は、大正十一年、市浦宮村の前身である相内小林区署に奉職以来二十年間、公職のかたわら古里桂川の治山治水に功績し、国有林の解放に手がけ生産基盤の拡大と桂川地区住民の生活安定に力を注ぎました。

また、桂川木炭農事実行組合を組織し、山林地を一戸当たり三反歩以上の増反地を払い下げ、昭和十七年六月退職

後も部落会長を務め、各層の指導に当たるなど、桂川の基礎づくりをしたといわれています。

建立費、秋田谷久助、秋田谷兼吉、秋田谷武雄、秋田谷寅四郎、秋田谷文雄、大澤寅一、秋田谷清之丞、山田秋三

工、山田光雄、山崎明、秋田谷重藏、秋田谷勝美、成田只

則、秋田谷久、秋田谷明、秋田谷長一郎、秋田谷勇。

桂川地区を一望できるようにと、桂川保健福祉館前の高台に建立され、遺族を代表して秋田谷納さんが、関係者各位による顕彰石碑建立に感謝するとともに、亡父の功績を大

切にしてゆきたい、とお礼の言葉を述べていました。

建立費、秋田谷久助、秋田谷兼吉、秋田谷武雄、秋田谷寅四郎、秋田谷文雄、大澤寅一、秋田谷清之丞、山田秋三

工、山田光雄、山崎明、秋田谷重藏、秋田谷勝美、成田只

則、秋田谷久、秋田谷明、秋田谷長一郎、秋田谷勇。



故人の遺徳を偲び、石碑は、桂川地区を一望できるように高台に建立された。

父母らもハッスル!!

子供会リーダー研修会



トーチづくりの指導をうけるお母さんたち

研修会を脇元小学校で実施しました。

一〇三名の参加者は、昨年をはるかに上回るすばらしい動きをみせ、西北五屈指の指導者(市浦中教頭福賀善宏、岩崎村教委宮本純典、西北教育事務所佐々木竹克)の指導にびつたりついていき、中でも、世話人のお父さん、お母さんたちの動きは講師の先生方を感じさせました。

特に夜のキャンプファイヤーは、校庭の中央で燃えさかる火を囲みながら、神秘の中にも楽しいふんいきを醸し出し、一本一本のトーチに点火された火のもとに、お互いの友情と、リーダーとしての心構えを確認し合って幕を閉じました。

人事往来

(七月十六日付)

▽脇元出張所長 佐藤哲也

(民生係長)▽民生係長 長利勝雄(行政係長)▽行政

係長 三和省勝(議会事務局)▽総務課税政係 村山

正臣(脇元出張所心得)▽議

会事務局 秋元取(総務課

税政係)▽総務課 黒川泰

子(脇元出張所用務員)

委 嘱

総務課税政係 岡本雪子
(総務課)
市浦村青少年問題協議会
委員 依谷任之、松山豊次、
小寺春男、内山金吾、小山
内幸右衛門、阿部季弘、須
藤安一、三和芳次、桑野博
夫、佐賀正敏、奈良岡明博

本荘莊雄、奈良孝博、奈良しづ江、三和孝徳、木村政邦、高橋精一、浜田春士、片山水繁、葛西節子、奈良義美、村元富弥。
市浦村農産振興地域整備促進協議会委員
武田長之助、青山香、三和芳次、佐藤二郎、三和久、湯浅信一、村元富弥、山田清作。

市浦村子ども会育成連絡協議会(浜田春士会長)では、

去る七月二十六日(日)、昭和五十六年度子ども会リーダー

市浦村長寿番付

東方

西方

	氏名	年齢	生年月日	地区
			明治	
横網	柏谷 谷め	92	22. 3. 15	相内
大開	山田 弥一	90	23. 9. 16	相内
脇結	高崎 吉	89	24. 11. 23	磯松
小前頭	高崎 三郎	88	26. 7. 17	磯松
1	浜田 和	87	26. 9. 23	十三
2	山崎 三郎	87	26. 11. 15	磯松
3	成田 三郎	87	27. 2. 9	相内
4	山崎 三郎	87	27. 8. 20	相内
5	白川 三郎	86	27. 11. 10	相内
6	工藤 三郎	86	28. 7. 6	相内
7	浜崎 三郎	86	28. 8. 19	十三
8	葛原 三郎	85	28. 11. 5	相内
9	成田 三郎	85	29. 2. 17	相内
10	後藤 三郎	85	29. 5. 18	磯松
11	村田 三郎	84	29. 12. 9	相内
12	相沢 三郎	84	30. 4. 10	相内
13	相沢 三郎	84	30. 6. 6	磯松
14	藤田 三郎	83	30. 11. 8	相内
15	武田 三郎	83	30. 11. 21	太田
16	小山内 三郎	83	30. 12. 7	十三
17	萬中 三郎	83	31. 1. 10	相内
18	中島 三郎	83	31. 6. 18	十三
19	豊島 三郎	82	31. 9. 14	相内
20	丸山 三郎	82	31. 9. 28	太田
21	山田 三郎	82	32. 2. 23	相内
22	木村 三郎	82	32. 5. 23	十三
23	今小 三郎	81	33. 1. 16	相内
24	小三 三郎	81	33. 3. 4	相内
25	近藤 三郎	81	33. 5. 5	磯松
26	三近 三郎	81	33. 6. 1	磯松
27	山田 三郎	81	33. 6. 27	相内
28	工藤 三郎	80	33. 9. 9	相内
29	安田 三郎	80	33. 9. 23	十三
30	山田 三郎	80	33. 11. 14	相内
31	三浦 三郎	80	34. 1. 27	相内
32	今三 三郎	80	34. 3. 20	相内
33	藤田 三郎	80	34. 3. 28	磯松
34	寺谷 三郎	80	34. 6. 27	相内
35	新和 三郎	80	34. 7. 14	磯松
十両1	秋田谷 三郎	79	34. 11. 11	磯松
2	秋田谷 三郎	79	34. 12. 8	桂川
3	渋谷 三郎	79	35. 1. 20	十三
4	奈良 三郎	79	35. 2. 8	太田
5	種田 三郎	79	35. 3. 3	磯松
6	村山 三郎	79	35. 4. 20	磯松
7	山内 三郎	79	35. 5. 14	相内
8	松江 三郎	79	35. 6. 10	十三
9	丸山 三郎	79	35. 7. 21	太田
10	藤田 三郎	79	35. 8. 4	磯松
11	本莊 三郎	79	35. 8. 25	十三

蒙御免

(明治三十五年八月三十一日まで)
(に生れた満七十九歳以上の方)

勸進元

市浦村役場

	氏名	年齢	生年月日	地区
			明治	
横網	小林 林	91	23. 2. 18	相内
大開	西海 西	89	24. 9. 25	十三
脇結	葛原 西	89	25. 4. 10	磯松
小前頭	宮崎 西	88	26. 8. 6	相内
1	前頭 1	87	26. 11. 15	十三
2	2	87	26. 12. 10	相内
3	3	87	27. 8. 7	相内
4	4	86	27. 10. 24	太田
5	5	86	27. 12. 28	相内
6	6	86	28. 7. 17	太田
7	7	85	28. 9. 19	十三
8	8	85	29. 1. 5	相内
9	9	85	29. 5. 7	相内
10	10	84	29. 10. 10	十三
11	11	84	30. 2. 18	太田
12	12	84	30. 6. 3	磯松
13	13	83	30. 10. 26	十三
14	14	83	30. 11. 10	桂川
15	15	83	30. 11. 27	相内
16	16	83	31. 1. 2	相内
17	17	83	31. 3. 8	磯松
18	18	83	31. 7. 20	太田
19	19	82	31. 9. 16	相内
20	20	82	31. 9. 30	磯松
21	21	82	32. 4. 22	十三
22	22	82	32. 8. 1	相内
23	23	81	33. 1. 25	十三
24	24	81	33. 4. 10	磯松
25	25	81	33. 5. 15	磯松
26	26	81	33. 6. 22	十三
27	27	81	33. 9. 1	十三
28	28	80	33. 9. 14	磯松
29	29	80	33. 10. 18	相内
30	30	80	34. 1. 3	磯松
31	31	80	34. 3. 1	磯松
32	32	80	34. 3. 20	相内
33	33	80	34. 6. 1	相内
34	34	80	34. 6. 28	相内
35	35	80	34. 7. 27	相内
十両1	吉佐 三郎	79	34. 11. 25	相内
2	藤田 三郎	79	34. 12. 23	磯松
3	大川 三郎	79	35. 1. 25	相内
4	三三 三郎	79	35. 2. 20	相内
5	三上 三郎	79	35. 4. 18	相内
6	柳上 三郎	79	35. 5. 8	磯松
7	安田 三郎	79	35. 5. 24	十三
8	藤田 三郎	79	35. 7. 15	相内
9	藤田 三郎	79	35. 7. 27	磯松
10	秋田谷 三郎	79	35. 8. 21	桂川

(昭和56年9月1日現在)

第三十六回県民体育大会

バレーボールが総合三位

陸上など各競技に善戦

第三十六回県民体育大会は、八月十一、二十三日の両日青森市の県総合運動公園を会場に開かれました。今大会は、県下六十七市町村から約五、六〇〇人の精鋭が参加し、市浦村からも男子バレーボール、家庭婦人バレーボール、バドミントン、卓球、剣道、軟式庭球、陸上競

技等に約八十人の選手を送りました。

二十日は朝からあいにくの大雨。午前十時から県民体育館で開会式のと、降り続く雨の中で予定どおり競技が開始されました。陸上競技では、二百俊一選手が砲丸投げで二位、二百俊百三徒競走に出場した上山裕

行選手、鎌田和廣選手が自己の記録を更新して、それぞれ入賞しました。

バレーボール競技でも、家庭婦人の活躍がめだち、村の部総合三位に入賞、バドミントンの卓球、軟式庭球、剣道の各選手も日頃の練習ぶりを発揮し、善戦しました。



雨のため開会式は、県民体育館で



家庭婦人バレーボールは準決勝で惜敗



軟式庭球も善戦したが、倉五村に惜敗

安全運転をして!!

園児が事故防止パレード

子供と老人を

交通事故から守ってネ



これ以上事故を起こさないで……と呼びかけるよい子

本村では、ことしに入ってから交通事故による死亡者が五人も出ていますが、相内保育所ではこのほど「おじちゃん、おばあちゃん、そして子供たちを交通事故から守ってください」と園児鼓笛隊により、村内目めき通りの交通安全パレードを実施しました。

パレードに先だち、相内児童館前に集合したお母さんや子供たちに、高松所長が交通安全の恐ろしさと、とび出しや安全歩行の呼びかけをし、子供たちも手を高く上げて、「ボク、ワタシ、かならずとります」と約束しました。パレードには、園児のほか母の会々員も多数参加し、それぞれ手づくりの安全プラカードを持って事故防止を呼びかけました。



手づくりのプラカードを持ってお母さんらも参加